

小特集 新時代の職業情報システム キャリアマトリックス

■ 充実した職業情報を提供します。 約500種類の職業に対して、充実した職業情報を提供します。

どんな職業か	就くには	労働条件の特徴	職業プロフィール	参考情報
具体的な仕事の内容を、文章と写真で詳しく説明します。	その職業に就くための方法について、解説文とフローチャートで示します。また、関連する資格も紹介します。	勤務地、就業形態、勤務時間、就業者の年齢・地域別の構成、今後の展望などを紹介します。	スキル、興味、ワークスタイルなど、職業の特徴を数値化して示します。	類似職業や関連資格、外部サイトへのリンクなどの情報を提供します。

■ 自分にあった職業が見つかります。 知りたい職業、自分の興味やスキルにあった職業、自分のキャリアが活かせる職業などを、素早く見つけることができます。



職業探索
職業名、職業分類、テーマなどから、職業を検索できます。



適職検索ナビ
興味、スキルなどから適した職業を探します。学生など若い人向きです。



キャリア分析ナビ
過去の経験から、自分のスキルや知識を確認し、そのような経験を活かせる職業を探索します。職業経験のある社会人向けです。

■ 活用例

キャリアマトリックスは、就職を考えている学生や、転職、再就職を考えている社会人、また、就職に関するカウンセラーや相談員等に活用していただけます。

若年者・学生は



- CASE1 「やりたいこと」探しに
- CASE2 仕事探検に
- CASE3 適職探しに
- CASE4 適職選択に

社会人は



- CASE1 キャリアの掘おろしに
- CASE2 新しい可能性の発見に
- CASE3 アピールポイントの確認に
- CASE4 キャリアアップに

教員やキャリアカウンセラーは



- CASE1 キャリア教育に
- CASE2 進路決定支援に
- CASE3 マッチングに
- CASE4 専門情報のリファレンスに

企業人事担当者は



- CASE1 効率的な人材確保に
 - CASE2 人材活用に
 - CASE3 人材開発に
- (企業向けに、求人・人材活用・人材開発を支援するシステムの開発を現在進めています)

■ アクセス

キャリアマトリックスへのアクセスは、下記のアドレスから。2つのサイトから同じ内容を提供しています(ミラーサイト)

<http://cmx.vrsys.net>
<http://cmx.hrsys.net>



キャリアマトリックストップ画面：ポータルサイト

■ お問い合わせ先

E-mail : cmx@vrsys.net

独立行政法人
労働政策研究・研修機構 労働大学校

I. キャリアマトリックスは 職業・キャリアの「総合情報ガイド」

JILPT統括研究員 吉田 修

キャリアマトリックスは、JILPTが開発したインターネットで職業・キャリア情報を総合的に提供する新時代の職業情報システムである。キャリアマトリックスは、豊富な職業情報を収録したデータベースを中核としているが、単なる情報の集積ではない。個人、個別企業のそれぞれ個別的なニーズに応え、求められる職業・キャリア情報を提供し、その達成方向に向けての示唆と助言を行うなど必要な支援を与える「総合情報ガイド」を目指している。

具体的には、職業・職務内容に関する詳細な解説情報と所要のスキルなど諸特性の数値データ等から構成されるデータベースとテストを含む多角的な検索システム、そして多彩な情報リンクからなっており、若年の適職発見から中高年の職業キャリアを生かした就業可能性の探索まで、個々の主体の意志決定を支援する「情報+ガイダンス」機能をもつ。また労働市場における多様な職業情報を整理し、共通言語として効果的なマッチングの基盤を提供したり、企業内での人的資源の最適活用をサポートするなど多様な機能をもっており、二一世紀における個人のキャリア発展と産業・労働の効率化への強い支援ニーズに応えるものである。このシステムは厚生労働省の要請に

基づいて二〇〇一年に研究が始まり、昨年九月、まず職業情報提供と対求職者・若年層サービスを中心としたシステムからインターネットにより公開を開始している。現在は本邦初の本格的職業情報システムとして若年相談機関やハローワーク、学校等から一般市民・家庭へと普及が進みつつある。今後は、対求人者サービスシステムの開発とともに、雇用・能力開発・教育など他の関係官民システムを含む情報連携の一つの中心として日本における官民共通の職業キャリア支援のポータルサイト（総合案内）、「公共情報財」としての活用が期待されている。

1 開発の背景

「職業情報の機能」

近年、就職をためらい、つまずき、就職後も離職を繰り返す若年層や、団塊定年の到来を控えてキャリアの転換に悩む中高年層が増大している。一方、労働市場では大量の求人求職ミスマッチによる構造的失業が見られ、その要因として、わが国における職業情報の未整備とそれによる市場の調整機能の弱さがあげられている。

今日の社会で職業情報は三つの重要な役割をもっている。

第一は、個人個人のレベルにおける自

選択・開発における「意志決定の基礎情報」としての役割である。そこでは普遍的な職業名称、職務内容、必要なスキル・知識・興味等の特性、就職経路とキャリア展開、労働条件、労働需給と見通しなどの情報が不可欠である。さらに個人個人のキャリア開発を支援するキャリアアカウンセリングにおいても、その可能性を拓く職業情報の提供は不可欠な要素となっている。

第二は、社会・企業レベルにおける「職業の仕様、流通の規格」として

の役割である。労働市場（外部・内部）における需給調整において普遍的な職業名称・整理分類と正確・妥当な内容定義は、精密なマッチングを行う上で不可欠であり、あたかも多様な商品に対するJIS規格のよう「求人・求職双方における共通認識が確保されねばならない。これは、人口減・人手不足時代の企業の人材

表1 キャリアマトリックスの提供するもの

	主要機能	サービス内容	充実・発展の方向
I	総合的職業情報提供 ・職業の共通言語 ・職業キャリアの総合ポータル	・多様な職業名・内容の共通理解と効率的なマッチングを可能とする辞書・事典・シソーラス機能 ・官民共通総合的職業・キャリア情報 ・個別ニーズに沿ったダイナミックな情報検索と提供 ・雇用・職業分野の包括的な情報案内	・多角的でファジーな検索の充実 ・Webを通じた職業情報の探索・収集システムの構築 ・官民による個別・専門的システム等開発への共通技術基盤の提供 ・職業情報蓄積による職業構造の解析・新職業分類体系の開発
II	アセスメント支援 ・適性診断テスト	・興味・スキル等から診断し適職探索と情報提供を統合システム的に提供	・官民の専門アセスメントと連携 ・共通技術基盤の提供
III	キャリア教育支援 ・ガイダンス ・教育用情報	・職業情報、テストを駆使して若年層のキャリア発達（キャリアリテラシー、職業意識等）を支援	・キャリア発達促進プログラム ・リアルで教育的なキャリア探索試行システム
IV	職業選択・就職支援 ・職歴者の職業資産分析・可能性探索 ・若年者の進路探索	・離転職者職歴からスキル・プロファイリング、幅広く可能性を探索し再就職を支援 ・若年層の適職・キャリア探索支援	・職業資産の精密な評価とガイド ・個人個人の職業資産価値評価 ・労働市場サイトとのリンク ・オートマッチングシステム
V	人的資源管理支援 ・人的資産情報	・求人要件明確化・人的資産評価で採用・配置を効率化、人材確保・活用を支援（開発中）	・内外労働市場と連携した人材管理システムで人的資源管理を支援 ・能力開発・求人システムとの連携
VI	キャリア形成支援 ・キャリア情報	・個人のキャリア開発とコンサルティングを情報面から支援	・官民のキャリア開発システムと連携
VII	キャリア専門家支援 ・専門技術情報	・官民カウンセラー等専門家に職業キャリアデータベースから情報支援	・専門水準向上等への支援 ・双方向交流による情報データ蓄積

の効率的配置・最適活用において必要となる要素でもある。

第三は、「職業」を通じて労働・キャリアに関連する各種の社会システムを結びつける「キー概念」としての役割である。職業情報は、米国防務省のO*NETシステムに見られるように、官民のキャリア教育から職業相談、人材紹介、教育訓練、キャリアアカウンセリング、各種支援措置等にいたるまでの多様な情報サービスを結びつける上で基本要素としての役割を担う。

「米欧に遅れた職業情報と関連システムの整備」

ちなみに欧米では、早くから職業情報や提供システムが整備され、職業別労働市場での効率的なマッチングや個人への手厚いキャリアアカウンセリング、企業の効率的な人材リクルートとその活用を支えてきた。近年の産業構造の変化は欧米においても職業内容に大きな変化をもたらした。職業情報と関連情報システムについてもこの一〇年間に大きな革新が見られる。

すなわち、米のO*NET等に代表されるインターネットによる公的職業キャリア支援情報システムの発展であり、官民共通の「公共情報財」として重要な社会インフラとしての役割を果たしている。

2 キャリアマトリックスの主要機能

キャリアマトリックスの主要機能としては表1のようなものがあり、諸特性の数値情報を基盤にもつ総合的職業情報をコアとして多角的なサービスを提供する。詳細は後述の解説を参照。

目で見るキャリアマトリックスのシステム

JILPT主任研究員 松本真作

1 世界最大級の情報リソース

労働政策研究・研修機構では、インターネットによる新しい職業情報、キャリア情報の提供システムを開発し、九月より一般公開を開始した。公開以来、多くの報道機関で取り上げられ、求人サイトにバナーが設置されたり、大学就職部、キャリアセンターのホームページ等に紹介が数多く行われ、予想以上のアクセスを得ている。ここでは、このキャリアマトリックスに関して、システムの画面を中心として、紹介していくことにする。

この種のシステムとしては、米国防務省が開発しているO*NETが有名である。本システム同様、職業を多面的に数値化し、データベースとして提供している。また、米国防務省のサイトで最もアクセスが多いトップ3は、①具体的な求人・求職情報の提供(AJBとよばれ、日本のハローワークインターネットサービスに相当)、②就職・転職に関する

総合案内サイト(Career InfoNet)、③職業情報であるが、本システムはこの②と③の部分の部分を担うシステムということができる。

職業情報を提供するサイトは、英国、ドイツ、フランス等にもある。それぞれ政府が開発、提供し、米国防務省と同様に、就職、転職、キャリア開発、能力開発、等々に関する基盤となる情報となつていく。各国のサイトはそれぞれに特色があるが、提供している内容を、職業数、項目数、コンテンツの

多様性等で総合的に評価すると、キャリアマトリックスはこれら諸外国のものに比べても、最大級の情報を提供しているといえることができる。

2 システムの主要画面とその構造

システムのトップ画面(ポータルサイト) 図1はシステムのトップ画面である。トップ画面の中央にシステムの中心機能となる「職業探索」、「適職探索ナビ」、「キャリア分析ナビ」がある。

図1 キャリアマトリックスのトップ画面



職業検索 「職業検索」では(図2)、様々な方法で職業を検索することができる。「フリーワード検索」では、職業名や職業解説に含まれる言葉から職業を検索でき、「職業分野検索」では当機構が一九八一年に刊行し、第四版まで改訂を重ねてきた「職業ハンドブック」で用いている分類により、職業を探ることが

できる。左側には、週替わりでの一つの職業を紹介する「職業スポットライト」、後で説明する職業検索の機能の一つであり、やはり週替わりで特定のテーマに関連する職業を紹介する「今週のテーマ」がある。その下では様々な関連分野のサイトを紹介しており、この部分が充実していくと、キャリアガイダンス、就職・転職、キャリア開発、求人・求職等々の総合案内サイトとして、本システムがポータルサイトになっていくといえる。右側は就職や転職、キャリアガイダンス等における最近の話題を紹介する「トピックス」があり、その下には、毎週アクセスされた職業をアクセス順に紹介する「職業アクセスランキング」がある。そして、システムの運営等に関する「お知らせ」があり、また、システムの操作マニュアルやパンフレット等をダウンロードできるコーナーも用意されている。

「テーマ検索」では(トップ画面の「今週のテーマ」ではこのテーマを週替わりで紹介している)、「モノを加工する」、「デザインする」、「人をケアする」、「海外で活躍する」等、職業を特徴づける五二のテーマから職業を

探することができる。テーマを選ぶとそれに関連した職業のリストが提示される(図3)。「テーマ検索」は上から順番に、モノに関するもの(DPTとして知られる対物関係志向の「Thing」、概念やアイデアに関するもの(DP

Tの対情報関係志向の「Data」、人に関するもの(DPTの対人間関係志向の「People」とその他、の四つにまとめられており、これが分かっているとテーマを探しやすい。職業検索では、この他にも職業の五十首順検索や、

CAREER MATRIX

図2~7

図2 職業検索の画面



図4 適職探索ナビー自己診断テスト



図6 自己診断テスト結果(2)



図3 職業検索—テーマ検索



図5 自己診断テスト結果(1)



図7 キャリア分析ナビ(ベーシック版) アピールポイント



CAREER MATRIX

図8~12

図8 キャリア分析ナビ(ベーシック版) 適職リスト

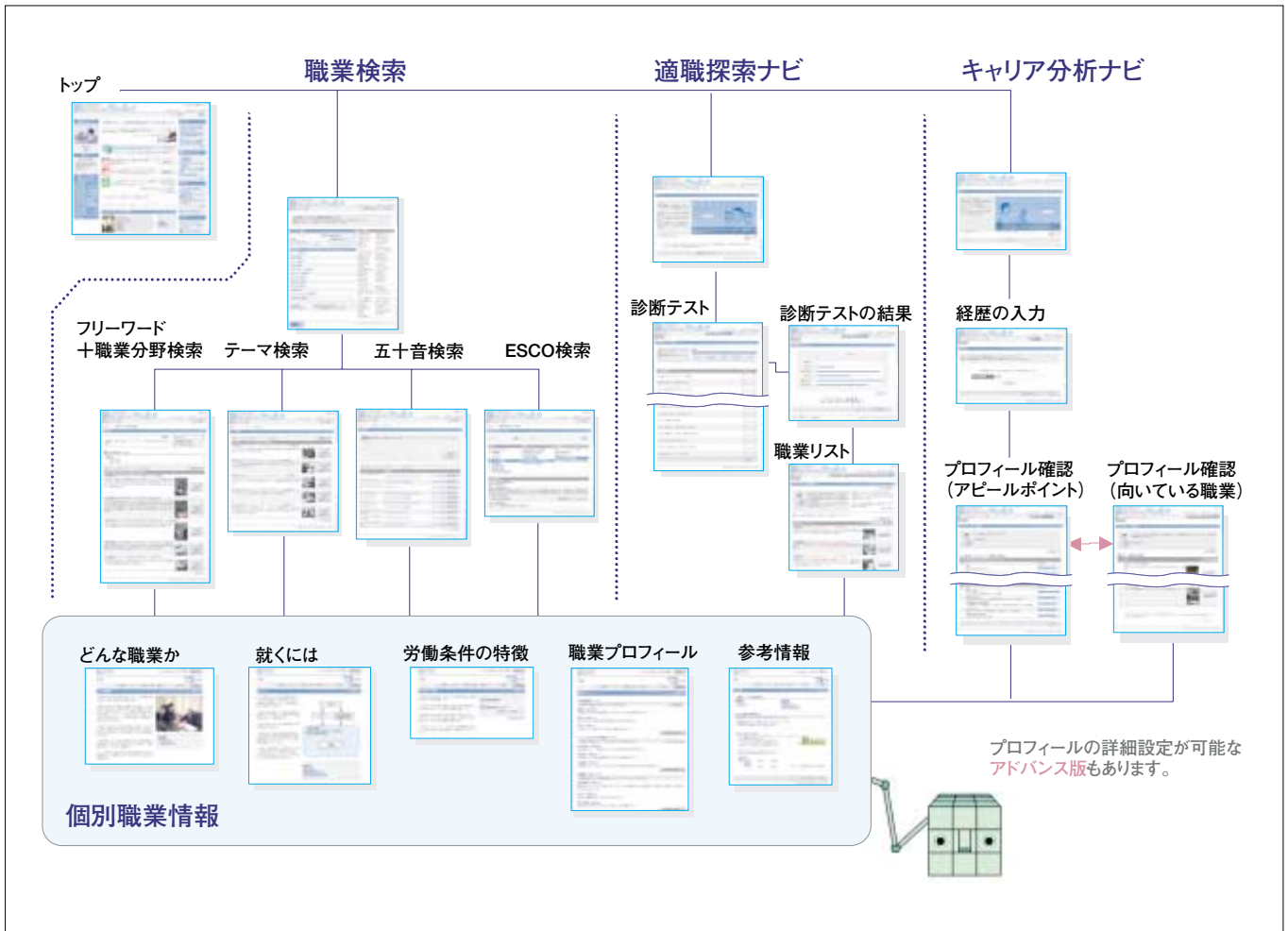
図9 キャリア分析ナビ(アドバンス版) プロフィール調整

図10 キャリア分析ナビ(アドバンス版) 比較結果

図11 キャリア分析ナビ(アドバンス版) アピールポイント

図12 キャリア分析ナビ(アドバンス版) チャレンジポイント

図13 システムの全体構成



厚生労働省編職業分類（ESCO）から職業を検索することができる。「適職探索ナビ」は主に学生や若年向けである。簡単な職業興味検査、職業の選択で重視する点（ワークスタイル）、スキル等からそれに合った職業を探索することができる。簡単な自己診断テストに回答すると（図4）、その結果が示され（図5）、その結果から適した職業をみることができ（図6）。

「キャリア分析ナビ」は、「キャリア分析ナビ」は、就業経験のある人向けのシステムで、これまでに就いた職業や職務を入力すると、そのような職業や職務をしてきた人であれば、「このような強みがあるはずだ」（図7、アピールポイント）、そしてその強みから「このような職業が向いています」という結果が得られる（図8）。「キャリア分析ナビ」にはアドバンス版も用意されており、経歴から自動的に算出されるスキルや知識のレベルを調整したり（図9）、特定の職業に関して、転職や就職の可能性を検討できる（図10）。そして、アピールポイント（図11）やチャレンジポイント（図12）を明らかにできる（図12）。

「アピールポイント」はベーシック版同様、その人の強み、長所であるが、チャレンジポイントとは、その職業に就くためには足りない部分であり、就業するために身につけたり、伸ばさなければならぬ点である。チャレンジポイントは将来的には、それを伸ばすための能力開発の手段や方法、関係教育研修機関の情報や具体的な教育訓練

コース、セミナー等の情報へリンクできることを目指している。

システムの全体構成 図13にシステムの全体構成を示した。以上、説明してきた各システムの関係がわかることと

CAREER MATRIX

図14~18

図14 職業情報—どんな職業か



図15 職業情報画面—就くには



図17 職業情報—職業プロフィール



図16 職業情報—労働条件の特徴



図18 職業情報—参考情報



思う。職業検索、適職探索ナビ、キャリア分析ナビのいずれを使っても、次に紹介する職業情報に繋がっている。職業情報画面 各システムを使った結果表示される職業情報は、職業情報の

概要を写真とともに示した「どんな職業か」（図14）、その職業に就く経路を示した「就くには」（図15）、就業者数や労働時間、平均賃金等を表示する「労働条件の特徴」（図16）、職業の特徴を数値化した「職業プロフィール」



「共通言語、共通基準」の整備である。共通言語、共通基準とは、共通の職業名、共通の分類、関連分野の用語の共通化、共通の基準の提供であり、これまではこのようなものが

なかったり、曖昧であったために、求職側の経歴やスキル、興味等の特性と、求人側が求める要件を照合する際、食い違いが生じたり、ミスマッチや就職プロセスでの様々な問題が生じているといえる。

共通言語、共通基準として、スキル三五カテゴリ、知識三三カテゴリ、興味六カテゴリ、ワークスタイル六

(図17)、類似職業や関連団体のサイトの紹介、そして、職業の映像情報を提供するジョブジョブワールドへのリンクを提供する「参考情報」(図18)からなる。

3 職業の特性数値と共通言語・共通基準

システム開発と平行して行ってきたのが、求人・求職や能力開発における

「キャリアマトリックス」という名称は、マトリックスに基盤としての意

味があるため、就職、転職、キャリア開発、能力開発等の基盤としての情報システムであり、また、中に登載されている数値情報が、行列、すなわちマトリックスとなっていることに由来している。

職業毎の九四カテゴリの基準となる数値は、次に述べるWeb職務調査によって情報を収集しており、実際にその職業に就いている人の評定を整理したものである。またこの数値は職業情報「職業プロフィール」として表示されたり、「適職探索ナビ」での個人の特性と職業の結びつきに使われたり、「キャリア分析ナビ」において経歴を分析する基準となっている。

4 六〇〇箇所の団体訪問、五〇万人のモニター調査とWeb職務調査

システムから提供するコンテンツの情報収集は二通りの方法で行っている。一つ目が関係団体等の訪問調査であり、当該職業に関連する団体・機関、業界団体等を訪問し、情報収集を行うものである。このような団体からその職業が見られる事業所等を紹介されることもある。システム公開までに、このような団体、約六〇〇箇所の訪問調査を行っている。

もうひとつの方法がWeb職務調査である。これまでにWebモニター約五〇万人の現在の職業を調べ、そのうち約二万人に対して、今回のプロジェクトのなかで開発した「Web職務調査システム」により、職務や仕事の内容を詳細に調査している。Web職務調査では、その職業を構成する課業(タ

スク)を評価・記述してもらうとともに、職業の各側面を数値により評定してもらっている。

Web職務調査により職業毎の詳細な数値データが得られたことから、先に述べたようにこの数値を整理し、データベースとしてシステムに搭載している。また、このWeb職務調査で得られた数値データについて、今後さらに分析、検討することにより、職業の相互関連性や構造、その特性値の分布等を統計的、科学的に明らかにしてゆくことができるようになる。

Webモニターによる調査を進展させ、現在、その仕事をしている職種毎のモニターを常時確保しておくことや、医療、福祉、IT、広告業界等々、その業界に詳しい人を常設モニターとして確保しておくことも考えられる。このような常設の情報源を通じて、今日、職業や業界に起こっている事象や状況をリアルタイムに把握し、関連法制度や技術等の変化の著しい中であって、日々変化している職業実態について常に最新の情報を求めるニーズに応えることができる。

5 システムの役割と今後の展開

キャリアマトリックスは公開一ヶ月で約三〇〇万件のアクセスがあり、ハローワークインターネットサービス等の公的なサイトや、大学の就職部・キャリアセンター等のホームページに数多くリンクが設定され、この分野の基準となる代表的なサイトとなってきていると言いうことができる。また、キャリアマトリックスの一般公開は、様々な

報道によっても大きく取り上げられて
いる。

このシステムは、米O*NET、
Career InfoNet等のシステムから見れ
ばその一部を達成したにすぎない。今
後も拡張、発展していく予定であり、
一般公開後も開発作業は進んでいる。

現在、具体的に開発が進んでいるもの
を紹介すると、そのひとつは専門家向
けのシステムである。九月に公開した
ものは一般向けであり、学生、若者、
転職を考えている人等、一般の人が使
えるものであるが、学校の進路指導担
当者、キャリアアカウンセラー、ハロー
ワーク職員等、キャリアガイダンスや
就職・転職を支援する専門家向けのシ
ステムも必要とされている。カウンセ
リングや指導に必要な専門・技術的関
連情報を専門家に提供するものである。
このシステムは「キャリアマトリック
スPro」(仮称)として、現在、準備
を進めている。また、企業の求人活動
を支援するシステムや企業内の配置、
異動、能力開発等を支援するシステム
も開発を行っている。本システムの基
盤といえる職業の特性を数値化したデ
ータベースを活用し、企業の人事担当
者等を支援するものである。このシス
テムは、人材の開発や人材の活用とい
う面では、政策立案や雇用管理支援を
行う行政職員にも有用なものといえる。

図19にキャリアマトリックスの機能
と役割を整理しているが、求職者の就
職・転職活動を支援し、学生や若者の
キャリアガイダンスの情報源となり、
求人企業や専門家にも利用される情報
システムとなることを目指している。
そしてキャリアマトリックスの最も根

源的な機能と役割は、共通の職業名、
共通の分類、共通の用語、共通の基準
からなる共通言語、共通基準の提供と
いうことができる。キャリアマトリッ
クスが広く利用されることによって、
関連する分野の共通言語、共通基準を
普及させていくことが、ひとつの大き
な目標といえる。

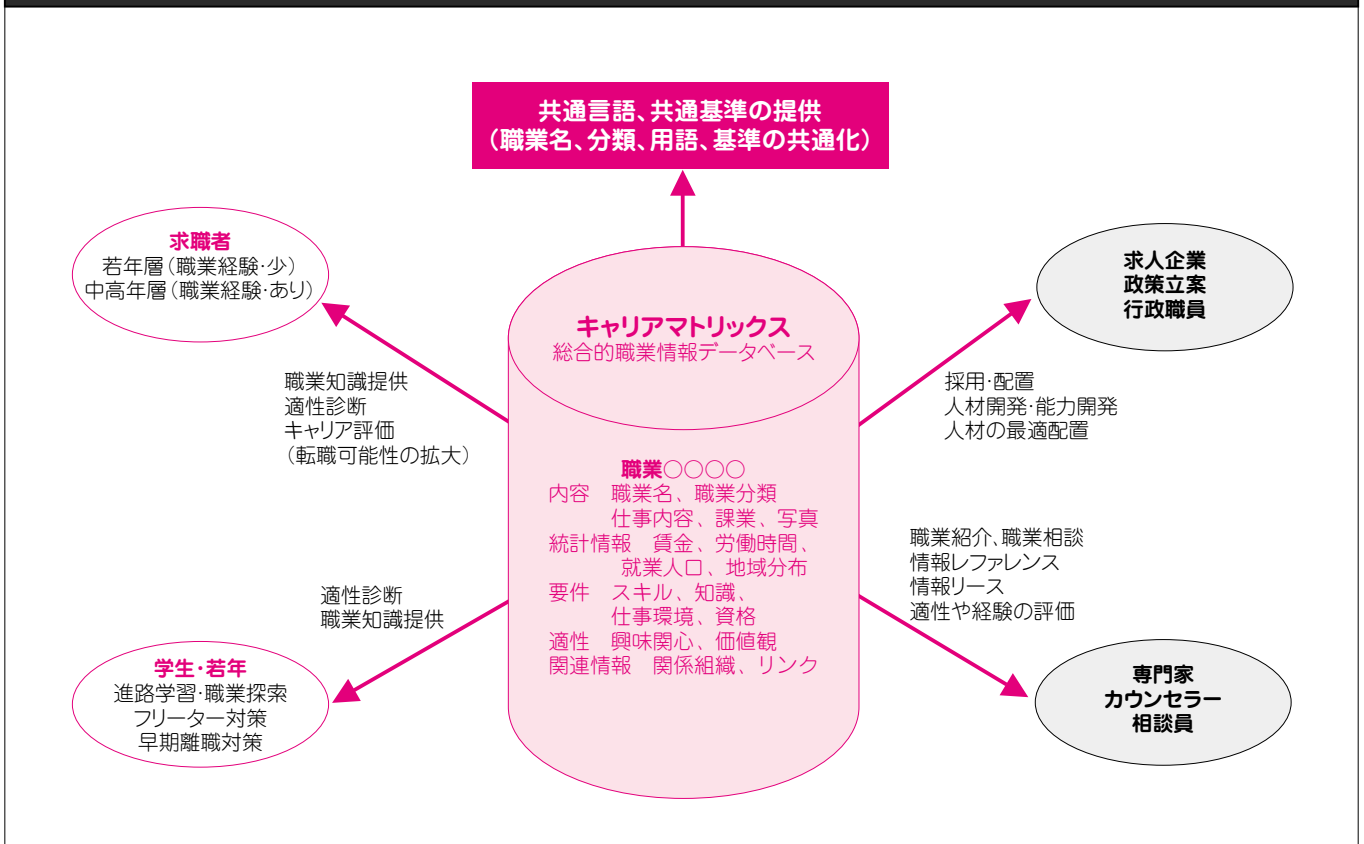
キャリアマトリックスは以下の三つ
のサイトから、二四時間三六五日、無
料で利用することができる。三つのサ
イトはミラーサイトとして同じ内容を
提供しており、アクセス集中に対応す
るとともに、一つのサイトが万が一何
らかの理由で停止しているときも、他
のサイトからは情報提供が続けられる
ようにしている。

<http://cnx.vrsys.net>
<http://cnx.hrsys.net>
<http://cnxn.vrsys.net>

【参考文献】

調査研究報告書「五一」 「人材の最適配置
のための新たな職業の基本情報システムに関
する研究―企業・個人ニーズ調査、諸外国の
システム、翻訳実験版の開発、他―」 日本
労働研究機構 二〇〇三年三月

図 19 キャリアマトリックスの機能と役割



Ⅲ・職業情報の革新—キャリアマトリックス

JILPT主任研究員 石井 徹

1 総合的な職業情報開発の背景

近年の産業経済の回復や雇用情勢の好転のもとで若年層における就職や無業者（未就業者）の問題はかなり緩和されてきているが、これらの経験から若年者のキャリア教育や職業指導の重要性が改めて社会に認識されてきている。また、中高年の雇用状況はいぜん厳しい状況であり、中高年には技術変化や企業ニーズに即した技能や知識を習得することで就業力や仕事能力を高める必要がある。

特に若年者では、職業理解と自己理解に加えてキャリア選択スキルを促進することができ、しかもそれをセルフヘルプで利用できる職業情報ツールの提供が求められている。また、中高年にはこれまでの職業経験で得た仕事能力（スキル）を的確に評価した適職選択や転職などのキャリア開発に有用な情報を提供することが求められている。キャリアマトリックスは、若年から中高年までの利用者が年齢や発達段階に応じて自らさまざまなナビゲーションを利用して、心理テストやスキル分析などによる診断と併せて職業を探索することでより適切な職業選択や就業を支援する総合的な職業情報システムである。

2 キャリア支援と職業情報

(1) 職業情報の機能や意義
職業情報とは、広い意味で人々が職業を理解し、よりよい職業選択をし、就職を行う場合、そして人々に職業や職務に人を適切に紹介しない人々を採用・配置する場合に有用な職業に関する情報である。言い換えれば、職業情報は、個々人の職業理解、職業選択、就職活動、そして教師やカウンセラーによる進路指導、進路相談、職業安定機関における職業紹介や就職支援、企業における従業員の採用や配置になくてはならない情報といえる。

特に進路指導において、個々人が主体的に進路を決めるためには、自己理解と職業情報を関連づけることが重要である。すなわち職業情報は、ややもすれば抽象的かつ疎遠な感のある「自分の進路」を考える際に、具体的な仕事内容やキャリアを目に見える形で示すことができる。

(2) 職業情報に求められる要件

情報技術が進展した今日では、最新の職業情報としては次のような要件が求められるだろう。これらの要件はきわめて有用なガイドラインである。キャリアマトリックスもできる限りこの要件を満たすよう開発を行っている。

- ・利用目的に沿ったもの
- ・最新で信頼性の高い情報
- ・利用対象の職業発達・レディネス、求職条件に沿ったもの
- ・利用対象の発達に応じて段階的、継続

統的な利用がなされるよう考慮されていること、例えば中高生には分かり易さ、面白さ、成人や求職者には詳細さ、具体性など

- ・印刷物以外にもビデオ、CD・ROM、パソコン、インターネットなど様々な媒体で提供されること
- ・相談や指導する側だけでなく、個人のセルフヘルプでの利用を考慮したもの

(3) 職業情報の探索と職業選択を支援するナビゲーション、診断機能

職業情報だけがあっても、効果的な職業情報の活用や進路選択などのガイダンスにはつながりにくいものである。やはり使いやすく強力な検索や診断システムが必要である。適職を提示できる評価・診断システムにより自己分析や自己理解を支援し、その結果と連携した職業情報がガイダンス効果を高める。インターネットのシステムでは、さらに本体の職業情報とリンクした種々の関連情報や求人情報などがあれば、さらに有用性が高い。

この代表的な職業情報システムが米国のO*NETであり、我が国ではキャリアマトリックスである。

3 キャリアマトリックスの開発の要点

(1) 職業情報の共通言語化

我が国にもすでに多くの職業情報があるが、その情報項目や内容は種々、

様々であり、信頼できる基準となる職業情報が必要とされている。これまでの職業情報において使用されてきた職業の分類、名称や用語は情報源や提供機関により様々で、進路指導関係者や職業紹介機関の間にも職業情報についての共通の言語がなく、情報を利用する学生や求職者などに混乱を与えていた。

職業情報の共通言語化の意義は、客観的で科学的な職業情報の提供であり、そのため職業分類、職業名、解説用語などを統一し、共通言語とすることである。工業製品に例えれば、JISの規格を定めるようなものといえる。キャリアマトリックスの開発目標の大きな柱が職業情報の共通言語化である。これからの職業情報は用語や項目などを出来るだけ統一したものにすることが重要である。

(2) 利用対象の拡大

キャリアマトリックスの利用対象は、大学生以上から中高年までと幅広い。すでに提供している職業ハンドブックOHB Yが中学・高校生向けであるのに対して、その成人版と位置づけることができる。今回新たに搭載したスキルなどの職務特性とその診断システムは、就業してからの職業経験において得たスキルなどから適職を診断するもので、中高年の自己理解やキャリア形成支援にきわめて有効である。この診断システムは職務分析の定量的分析（数値化）による画期的な研究開発成果をもとに開発された。

(3) 職業情報の拡充

これまでの印刷物による職業情報は、職業解説と就業場面の写真等が主であ

り、職業数も数百タイトル程度が上限であった。近年、情報技術が進展するにつれて情報検索やナビゲーション機能が搭載され、情報自体も職業に関する解説はもとより、映像や音声情報が掲載されてきた。インターネットで提供するキャリアマトリックスでは、これらに加えて職業の関連統計や新たに開発したスキルや知識などの職務特性を職業情報としても掲載し、さらに動画などの映像情報、関連団体（問い合わせ先）のサイトをウェブリンクにより提供している。現在、職業名によるハローワークの求人情報とのリンクについても試用、検討中である。

(4) 情報探索、適職診断・評価、マッチング機能の強化

職業情報システムのガイダンス効果や使い易さは、解説やコンテンツそのものの分かりやすさや豊富さだけでなくシステムが提供する職業探索やマッチング機能にも大きく依存している。キャリアマトリックスでは、職業解説のほか、検索システム、職業興味、ワークスタイルなどの心理テスト、スキルなどの職務特性データに依拠した診断システムなどを搭載し、職業情報の参照、職業の検索、診断・評価そして選択支援までを一貫して行うことができる。

(5) 総合的職業情報とインターネット

これまでの職業情報（印刷物やCD・ROMなど）では総合性を高めるためには、豊富な情報と多くの機能をもつシステムを搭載するオールインワン方式が有力であった。しかし、最近ではインターネットにより他のウェブ

サイトとリンクすることでより総合性を発揮することができる。このため、本体のシステムには情報の差別化、精緻化、職業探索や診断機能の高度化などの特色を持たせることが重要である。そこで基盤的で信頼できる職業情報と高度で斬新な探索・診断機能の連携による職業情報システムが開発モデルとなる。そして、本体の職業情報に種々のキャリア関連情報、分かりやすい動画などの映像情報として就職に役立つ求人情報とのリンクが加味されればさらに効果的である。

いつでも、どこでも、だれでも簡単にアクセスでき、セルフヘルプで利用出来る職業情報の提供には、現在、インターネットが最良の媒体といえる。

4 キャリアマトリックスの利用・活用のポイント

キャリアマトリックスの具体的な情報や探索画面、システムの機能は詳しく紹介されているので、ここでは基本的な利用・活用のポイントを説明しておこう。

(1) 職業情報の収録数

キャリアマトリックスの職業情報は約五〇〇で日本最大級であるが、これで十分とはいえない。しかし、数値情報を含めた信頼できる職業情報を数多く整備することは容易にできないのが実状である。世の中には、収録の約五〇〇の他にも多くの職業が存在している。求める職業がキャリアマトリックスにない場合でも、これらの五〇〇職業のいずれかに類似しているか、関連しているため、それらの職業から類推したり、比較検討することができる。

これは主要な職業の内容・特性を熟知したキャリアアカウンセラーにおいては特に然りである。

(2) 職業情報の内容

キャリアマトリックスの職業解説の分量は約二五〇〇字で、職業ハンドブック（九七年版）からみると約半分程度である。しかし、職業に関する特性データ、種々の統計、関連ウェブサイトのなどの参考情報など職業情報全体では情報項目や内容が大幅に拡充されており、特に職務特性データは評価や診断システムにおけるマッチング機能の基盤になっている。これにより個人のニーズに応じて興味・適性や経験から適職を総合的に提供したり、希望職種に必要なスキルを提示するなど、「一人一人のための職業情報」の提供が可能となっている。この点がこれまでの解説や記述中心の職業情報と明らかに違っている。ちなみに職業理解や選択においてより詳しい職業記述情報が必要な場合は、詳細な情報をキャリアマトリックス掲載の業界団体のウェブページや本・雑誌などからも入手できる。

またキャリアマトリックスの職業リストや情報内容は、全国レベルのものであり、必要となる職業情報は地域や利用対象などにより異なる。カウンセラーやハローワークの職員が地域の情報や利用者の態様とニーズにあった情報を加味すればより有用な情報となる。これとは逆に、高校生の一、二年においてキャリアマトリックスを使用する場合は、職業情報は詳細過ぎたり、検索のナビゲーションや診断システムはうまく適合しないことがあると考え

られる。この場合は、中高生向けの職業ハンドブックOHBY（CD・ROM）を使用し、職業理解や発達に応じてキャリアマトリックスに移行するのが適切であろう。

(3) 心理検査や診断システムと連携した利用

キャリアマトリックスには、いくつかのテストが搭載されているが、ウェブ上で使用すること前提に、より簡単にスピーディに実施と結果の提供ができるよう設計されている。本格的な心理テストからみるとやはり簡易版であり、より正確な結果を求める場合には、本格的なテスト（紙筆版職業興味検査VPI、職業レディネステストVRTなど）やキャリア・インサイトなどの利用を奨める。また、テストの結果についてはシステムが簡潔な解説や適職などの情報を提供しているが、できればカウンセラーなどの専門家の診断や所見をおおぐことを奨めたい。

キャリアマトリックスの3つの活用事例

雇用職業研究会での事例報告から

高校生の進路指導で

大宮商業高校（さいたま市）は、昭和一九年に設立された。一学年六クラスで、現在約七二〇人が在籍し、女子が九割強を占める。進路状況をみると約六割が就職、約四割が進学する。「キャリアマトリックス」の活用は、欠かさない、コンピューター関係の環境も充実。第一〜三までのコンピューター室、CAI教室に各四二台、総合実習室に五六台、進路閲覧室に二台、各教室にも一台ずつ配置されている。

同校の進路指導は入学と同時に開始される。一年次から進路意識の啓発を図るため、進学・就職希望者を問わず、「働くことについて考える」ことをカリキュラムに組み込んでいる。進学希望者でも、目的もなく進学し、あとになって後悔することのないよう、自己理解・職業理解を低学年から考えてもらうためだ。

「キャリアマトリックス」や「職業レディネステスト」を使った進路学習会（『職業調べ』）は、一年次の最後の三月に行う。この時期に設定している理由については、進路指導部主事の福本剛史教諭は、「入学したばかりの一年次の最初の頃はいろいろな人の話を聞かせて、その後で、考えさせた方がいいから」と説明した。最初は、外部講師の講演会を開き、福本主事による



事例報告の様子（左から福本氏、降幡氏、森氏）

進路講義などを、進路を考えるための導入部に位置づけている。学年別に月刊で「進路指針」も発行している。

同校は「キャリアマトリックス」のモニター校で、平成二六〜一七年に、試行版の段階から使用している。その頃は、コンピューター回線の容量の問題もあり、『職業調べ』には「職業ハンドブックOHBY」も併用していた。OHBYを使用した生徒からは、「マップがあったり、テスト形式で仕事が検索できてやりやすかった」「少しやさしすぎる感じもした」などの声があり、一方、キャリアマトリックスを使用した生徒からは「説明が少し難しい」

「その仕事にどの位の人が働いているかも知ることができて良い」「関連するページにリンクしていて良い」といった声が出たという。

今年の例を具体的にみると、先述のように一年次の三月に、学年を二つ分けて、前半組はコンピューター室で「キャリアマトリックス」を使った「職業調べ」を行い、後半組は、教室でレディネステスト（適性検査）を行う。「キャリアマトリックス」を使った授業の展開としては、最初の数分で「働くこととは」「職業についての概要」などを説明し、その後、五分程度で簡単に操作を説明。まず、職業名からの調べ方を説明し、併せて、どのような情報に掲載されているか、統計の見方、関連サイトへのリンクなどについても触れ、診断テストの説明を行う。

説明後は、生徒たちに自由に操作させ、生徒たちと会話しながら巡視する。大半の生徒は、診断テストをまず行い、その結果を踏まえて、職業をみているという。操作を始めて一五〜二〇分程度経ったら、一旦操作を止めさせ、追加の説明を数分行い、さらに自由に操作させる。終了前五分になったら、操作を終了させ、職業理解の大切さを話す。

こうした授業を通じて、福本主事は、「一般的に学生は適性検査を好む。これにビジュアルなキャリアマトリックス

を併用することで、周囲にいる友達との会話も弾み、自己理解に役立っている」とみている。

また福本主事は、「キャリアマトリックス」の利点として、①その職業に関連したリンクが張ってあるので関連情報が入手しやすい②家庭のパソコンからもアクセスできるので家族と一緒に使い、話し合いもできる——ことをあげる。一方、学校側が生徒に使用させる際は、「生徒は勝手に思い込んでしまうこともあるので、サポートが必要」との留意点をあげた。授業での使用を広げるため、福本主事は、進路指導部の教員を対象に今年、研修会を開いた。先生方からは「実際に操作してみてもどのようなものかわかった。使ってみないと、このシステムの良さなどがよくわからない」などの声が出されたという。

こうした経験を踏まえて、福本主事は、「キャリアマトリックスを知らない人が結構いる。知らない人が使うと便利との感想が多い」と指摘。研修会などの充実を要望した。

フリーター対策の現場で

いわゆるフリーターと呼ばれる不安定な就労を続けながらも、真に安定した雇用を希望している若年者に支援策を講じるために平成一三年一月にオープンした東京の「渋谷ヤングハローワーク」。

同施設も求人情報閲覧コーナーのほか、職業適性診断コーナーなど、コンピューター関係の環境は整備されており、若者はPC操作に抵抗感が少ない人も多いため、一〇月から来訪者に、

「キャリアマトリックス」のパンフレットを渡すようにしている。

渋谷ヤングハローワークの利用者の特徴（平成一七年度の登録者約一万三〇〇〇人を集計）は以下のとおり。登録時の在職状況は、在職中が三四・四％、無職が六五・五％。在職者の雇用形態ではアルバイトが五一・〇％と過半数を占め、次いで正社員が二六・〇％。また、過去の就労経験について登録者に確認すると、正社員経験ありが三四・九％、非正社員のみ経験ありが三四・三％、就労経験無しが三〇・八％など、この三つがほぼ同じ割合になっている。

「キャリアマトリックス」の使用に当たっては、希望する職種をまず検索するのが一般的だが、渋谷ヤングハローワークの登録者の四六・四％が、希望職種不明だった。同ハローワークの降幡勇一・統括職業指導官は、「キャリアマトリックス」を利用した事例を紹介した。

〈事例1〉男性二七歳、理系の大学中退後、音響関係の専門学校を平成一六年四月に卒業、履歴はアルバイト経験のみで、本人は音楽関係の業界に就職を希望。キャリアインサイトを利用してうえで、職業情報をキャリアマトリックスで検索するように案内。「フリーキーワード検索」で「音楽」をキーワードに検索したが希望に合わないため、「テーマ検索」のミュージックで検索、その結果「録音エンジニア」を希望職種に選ぶ。〈求人情報自己検索システム〉で情報を確認したが、募集情報が少なく、条件が厳しいため断念。現在は、音楽関係であればどんな職業

でもチャレンジしたいと求職活動中。

〈事例2〉女性二九歳、法学部を卒業後、司法試験をめざして勉強中だが、今年が最後のチャレンジになる。両親には今年不合格だったら就職する約束をしている。ハローワークの利用は、自分を見つめ直すため。「キャリアインサイト」の利用をすすめたうえで、結果にもとづいて職業を「キャリアマトリックス」で検索するよう案内。統計情報を確認して現実の厳しさを実感したようで、将来を考え直すためにも、自宅で「キャリアマトリックス」を使い、職業選択をしていきたいとのこと。

こうした活用事例を踏まえて、降幡氏は、「キャリアマトリックス」を使った確かな支援を進めるため、①「登録カード発行コーナー」への新規登録時に誘導し、「キャリアマトリックス」のサイトを利用するガイダンスを行っている②「キャリアマトリックス」サイトへ簡単にアクセスできるように、渋谷ヤングハローワークのホームページのトップに、「キャリアマトリックス」へのリンクボタンを九月から設け、利用者にも活用を奨めている③職業適性診断テスト「キャリアインサイト」の検査結果をもとに詳しい職業情報を職業ハンドブックOHBVで確認する利用方法を発展させ、「キャリアマトリックス」で職業情報を得るための環境改善も検討している④PCレッスン・インターネットコーナー（キャリアマトリックス）十職業適性診断コーナー（キャリアインサイト）十求人情報閲覧コーナー（求人情報自己検索システム）を効果的に利用しながら仕事探しができる支援メニューを検討中である――

ことを報告した。

中高年齢者の再就職支援で

中高年齢層での休職者へのキャリアマトリックス活用の可能性を探るため、「ハローワークよこはま」で四五歳以上の中高年の求職者一〇人にモニター調査した結果を就職支援相談コーナーの森洋行氏が紹介した。

調査は一〇人のモニターに自由にキャリアマトリックスを三〇分から一時間利用してもらい、その感想を聴取した。職員が近くに待機し随時質問に回答した。モニターの内訳は、男性六人、女性四人（四〇〜四四歳一人、四五〜四九歳三人、五〇〜五四歳二人、五五〜五九歳四人）で、現況は無職が九人、在職中が一人。キャリアマトリックスに対する総合的な評価は、①かなり有意義である二人②少し有意義である六人③有意義でない二人――となった。その理由として、「キャリア分析ナビの適職一覧や類似職業などは、今までの自分の経験を分析でき、思いもよらぬ業種にチャレンジできるかわかる」（類似理由ほか三件）、「マリストが使いやすい、便利」（同ほか二件）などがあがった。

この結果について、森氏は「適職一覧を評価している四人はいずれも、非自発的失業者で、可能ならば職域を広げてほしいと考えていると予想される。マリストは反復使用できるので気軽に活用することが可能なため」などと分析している。

また、評価しづらい点としては「若者向けにはいいが、中高年向けにはもの足りない。経験年数等を反映させる

とよい」「実際の求人情報までリンクできれば使ってみたい」――などの意見がでた。こうした感想を踏まえて、中高年が「キャリアマトリックス」を効果的に使用する方法として、森氏は「相談過程で、カウンセラー主導により使用する方が、中高年齢層にはなじみやすいのではないかとみている。自由に使った場合、固定観念が払拭できず、誤った解釈が生じる可能性があるためだ。

そこで、クライアントの自主性が損なわれるという懸念はあるものの、カウンセラー主導で、相談過程で使用するにより、「結果についての助言や具体的な解釈、データをきっかけとしたキャリアの棚卸を通して、クライアント自身の自己分析のきっかけづくりとなる。中高年齢層のなかにはPC作業に不慣れな人もいるので、カウンセラー主導で相談の中で展開することで、システム自体に対する期待度や感心もあがるのではないかと（森氏）とみている。

そのうえで森氏は、キャリアマトリックスを中高年齢層者に活用する際の可能性についてこう語る。

「今までにまったく接点のない職種に応募する場合でも、その希望職種についての職業情報を調べていくうちに、いままでの本人の経験と何らかのつながりが見つかり、それを機に気付かなかった職業資質の発掘につながることもあり得る。その『つながり』にクライアント自身もしくはカウンセラーが気付き、その『気付き』にかかわることができれば、新たな可能性の探索につながる」（調査部）